



長崎ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM)  
の活動について



長崎大学原爆後障害医療研究所  
高村 昇

よろしくお願いします。長崎大学の高村です。  
私の方からはですね、先ほど寺原部長から NASHIM の事業概要について説明がありましたけれども、それに少し肉付けをする形で、過去の写真も見ながらこれまでの活動を振り返るということをしていきたいと思えます。

チェルノブイリ・カザフスタン受け入れ研修  
Training of medical specialists from  
Chernobyl and Semipalatinsk



これは先ほども少し話がありました、チェルノブイリ・カザフスタンの研修事業です。  
これは3年前の写真ですけれども、だいたい旧ソビエト連邦から6名程度の方を受け入れております。

長崎原爆病院での研修と  
原爆平和追悼記念式典への参加



これは後からご挨拶いただく谷口先生が院長を務めていらっしゃる長崎原爆病院での研修の様、そして毎年8月9日原爆平和追悼記念式典にも研修生の方には参加していただいております。





先ほどから出ています NASHIM がやっているロシア語の出版、甲状腺学であったりとか血液学であったりとか、あるいは甲状腺のがんについての超音波所見についてのアトラスであったりとか、こういったものを出版してロシア、あるいはウクライナ、ベラルーシといった旧ソ連邦の医師・専門家に無料で配布をしています。

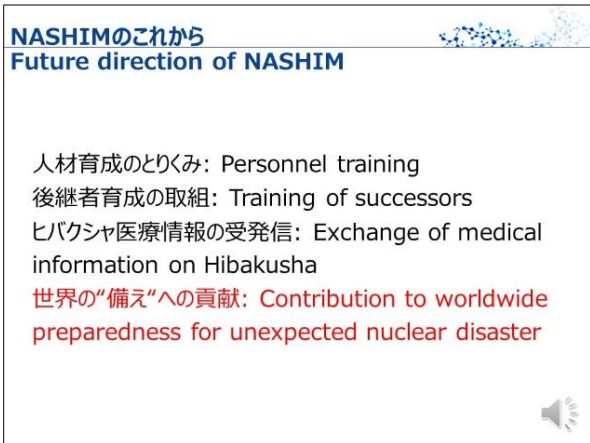


先ほども少し山下先生から話がありましたけれども、震災、あるいは福島第一原発事故の直後非常に東京を中心としてパニックが起こったということに対して正しい情報を発信しようということで、NASHIM ではここに書いてあるとおり東日本大震災復興支援シンポジウムというものを東京で行いました。

3 回行ったんですけども、このときは私が司会をしましたけれども、非常に多くの質問が来て、また非常に不安な方が多かったという風に記憶しています。

そういった方に、山下先生もそうでしたけれども、長崎からの

専門家が東京で講演をすることで、正しい知識の普及ということを図ってまいりました。



NASHIM のこれからということについて書いております。これまでも人材育成の取り組み、そして後継者育成の取り組み、あるいは被爆者医療情報の受発信ということをやってまいりました。

そしてこれからやっぱり大事になることはですね、世界の「備え」への貢献という風にありますけれども、これまでチェルノブイリ、長崎、そして福島で得られてきた知見というのを元に、世界においてそういった原子力災害、いわゆる備えの医療に対して携わっている方に対して、広く情報を発信していく、広く専門家を育成していくという役割が今後の

NASHIM には求められているのではないかという風に思います。私からは以上です。